



WAVE 40号

ウェーブ

2009年10月

主な内容

2・3 総会報告

4 INFORMATION

生活クラブ生協『エッコロ』を活用した地域福祉

もっと安心な地域へ、 ワーカーズの役割



生活クラブ生協は、『エッコロ』を媒体として組合員による助け合いをめざしてきました。このたびそのしくみをさらに社会化させ、ワーカーズ・コレクティブによる協同の力を発揮し、地域住民を巻き込みながら市民参加の福祉を実現することに歩み出しました。従来から進めてきた食の安全だけではなく、生活の安全をワーカーズをつくることで進めようとするものです。ワーカーズ連合会は、協同組合間の協働と捉え、共に取り組んでいくことを決定しました。



急速にすすむ埼玉県の高齢化、介護保険はあるけれど、本当に私たちが困ったときに使える制度になっているのでしょうか？

人と人の関係性が希薄になった今日、歳をかさねるごとに不安が増します。高齢者は、障がい者は、子育て世代は、と縦割りの既存の制度も、人の生活に根ざしたものとは言いにくく、使いにくさがあります。

私たちワーカーズ・コレクティブが行う福祉事業では、メンバーの一人ひとりが地域福祉への思いを抱き、経営を担い、福祉サービスという労働を担っています。質の高いサービスはそこから生まれ、地域全体を豊かにしていこうとする原動力が生まれています。またワーカーズの福祉サービスは、会員同士の助け合いによるサービスです。地域のなかで会員数を増やすことにより、人と人をつなぎ、助け合いの精神を復活させながら、その人らしい生活をサポートする事業です。

一人暮らしや、老夫婦だけの世帯が増え、家族の支えあいが期待できない世帯も多く、歳をかさね、行動範囲が狭まる人々には、生活範囲での人の関係が頼りになります。また、子育て

世代も地域の支えあいが安心できる子育ての環境となります。震災など大きな災害を経験した地域は人と人のつながりの必要性を学んでいます。

また、介護の必要はないけれど、働くことからリタイアした人々は、地域とのつながりを求めています。人に会え、趣味や特技を広げるきっかけになる場や、生き方、暮らし方への共感者を求めている人も多いと思います。サービス利用が必要になったとき、その人の生活事情を考慮した利用相談機能も必要です。長い高齢期に必要なものは多種多様です。

人は、いつかは誰かの手を借りなければなりません。既存の制度やサービスをこえ、歳をかさねても、子育て中でも、障がいを持つことになっても、その人らしい生活を全うできるサービスこそが地域に必要です。生活クラブの活動の中で培った人との関係と社会に対する問題意識をバネにし、利用する人の立場にたってサービスを提供することのできるワーカーズを増やし、協同の力を広げていきましょう。

